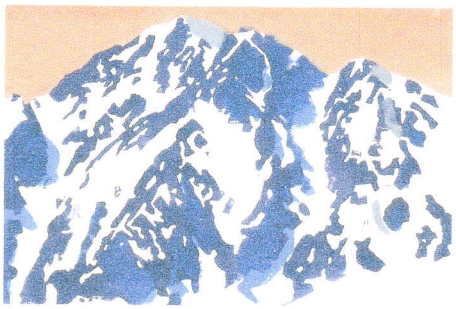

山登りの魅力を子どもたちに

川北秀樹

「足腰が鍛えられる。マイナスイオンで癒され、おだやかな気分になれる。出会った花や自然の美しさに感動できる。」ある人が山登りの魅力について言った言葉です。また別の人は言います。「登山で体を思いっきり使い、汗を流すと、毒素が全部抜けて体も心もスッキリするし、無心になれる。」

たしかに、大自然と向き合うと、人間が自然の一部だと言うことが分かり、謙虚になれます。したがって、自然の大切さも分かるようになります。子どもの頃から自然の中でうんと体を使って遊ぶと、自然を破壊してはならないということも理解できます。

人間は直立二足歩行をする生き物です。歩くことで、猿から進化して人間らしくなってきました。ここに、山登りの教育的な価値があります。長時間にわたり、二足歩行をする山登りは、人間がより人間らしくなるための活動だともいえます。また、互いに支えあって初めて「人」と言う字が成立します。支えあいがあってこその人間です。これは、グループでの山登りについて言えることです。登山は文化であると言われる所以（ゆえん）です。

あるブータン人が言うように、「本当の静寂」や、「本当の闇」というものを、都会の子どもは知りません。静寂や闇あるいは広い土地、美しい水は、子どもの発達に欠かせないものです。これらのものは、大自然、とくに山に入ることで容易に得られます。「夜空の星はこんなに美しいものだったのか。」「月って、こんなに明るいものだったんだ。」「山から湧き出る水って、こんなに美味しいんだ。」このように、本来の自然の姿がわかってきます。静寂の中で物事を考えると、いいアイデアが浮かびます。例をあげると、新田次郎の小説『孤高の人』で有名な、戦前に活躍した加藤文太郎は、山中で新しい機械製作のアイデアを思いついたといいます。散歩をするだけでも、いい考えが浮かんだりします。

山登りにかぎらず、体をよく動かすと、記憶力や思考力も伸びます。血の巡りがよくなり、体全体に新しい血液がいきわたるからでしょう。オリンピック選手のような一流のアスリートたちは、みんな頭脳明晰です。一流の登山家もまた然りです。

今の子どもたちは、便利さや快適さを求める風潮や、物質があふれかえる環境の中で成長していきます。山に登るという経験を通じて、五感の発達をうながし、我慢づよさや、たくましい行動力をつけさせたいと思います。

一緒に親子で経ヶ峰や入道岳に登った、ある女の先生の言葉です。

「いくら忙しくても、時間をやりくりして山に登りたい。登山にはそれだけの価値がある。」